

小中一貫教育、CS・地学協働のさらなる充実へ

小中一貫・CS 通信

NO.67 R6.10.31

幕別町教育委員会 学校教育推進員

10月上旬までの暖かさが嘘だったかのように、朝夕の寒さが身にしみる日が続くようになりました。季節は確実に冬に向かって歩み続けています。各学校では、文化祭や学習発表会、修学旅行など大きな行事を成功させ、勉学の秋、芸術の秋を充実させています。子ども達の資質・能力を高める絶好の季節、教育活動の一層の充実を期待したいものです。今回は、まくべつ学園と糠内学園の紹介特集です。

シリーズ学園紹介 小中一貫の学園って、どんなことをしているの？

その1 まくべつ学園と糠内学園

まくべつ学園って、どんな学校？

まくべつ学園は、幕別小学校と幕別中学校の一小一中からなる分離型小中一貫校で、隣接する立地を生かして日常的な乗入授業を行うなど活発な小中一貫教育を進めている学園です。

令和8年度には義務教育学校に移行し完全に一つの学校として進化・発展を遂げる予定です。現在、義務教育学校開校に向け、様々な取組が進められているところですが、その特長的な取組を見ていきましょう。

特長① 多彩な乗入授業

5月20日(月)から、算数・外国語でそれぞれ70時間、音楽35時間、体育140時間、計315時間の今年度の乗入授業が始まっています。昨年よりも70時間増え、ほぼ毎日小学校の授業へ中学校の先生が乗り入れています。



毎日の授業のほかに、運動会・体育祭や学習発表会・学校祭などの行事の際にも交流が活発に行われ、体育祭総練習を6年生が見学しその雰囲気を感じたり、運動会総練習を中学校教師が視察して義務教育学校になった時のイメージを高めたり、学習発表会の器楽練習の時間に中学校音楽教師が入って専門的な指導をしたりと、多彩な乗入授業や交流がされています。義務教育学校に向けて小中一貫教育がいっそう充実してきています。

特長② 子ども同士、先生同士の活発な交流に加えて、地域交流も

乗入授業の他にも児童会・生徒会交流、小中で行う合同学習、3学期に集中的に実施される中学校登校や部活体験など子ども同士の交流が活発に行われています。

先生方の交流も盛んで、毎日のように行われる乗入授業の際に授業内容や児童の様子についての意見交換がご



く自然に行われているほか、校内研究のテーマを統一して合同の研修会議をもつなど協働も進んでいます。また、合同ミニバレー大会も開き親睦も深めています。小中の先生方の日常的な交流と仲の良さが、様々な教育活動の基盤になっています。

さらに今年は合同あいさつ運動を地学協働あいさつ運動として地域にまで範囲を広げる取組にしています。

特長③ ふるさと学習・キャリア教育をはじめとする系統性ある学習

まくべつ学園ふるさと・キャリア教育全体計画「オマック」に基づき、学園・地域の特色を生かした「合同総合」を学園の地域連携委員会を主体に実施しています。今年も令和6年度版オマックを確認し、9年間で育てる資質・能力を明確にしたふるさと学習・キャリア教育を進めています。

まくべつ学園では、早くから教科ごとの系統表が整備され小学1年生から中学3年生までの学びが見通せる小中一貫教育課程が整備されています。これをもとに中学教師は小学生へ自信をもって指導することができ、小学教師は小学校卒業後を見通した指導をすることができています。



特長④ 義務教育学校開校に向けて



小中一貫した研究主題にした校内研修を合同で進める一方、義務教育学校開校を見すえて開校部会も始動しています。分掌業務ごとに分担した教職員によるこの部会は、小中が一つの学校になった時の具体的な課題の洗い出しをすることを手始めに、その課題解決の方針を見出していく役割をもちます。

これだけたくさんの連携・交流がなされている幕別小中ですが、いざ一つの学校になろうとすると、小学校と中学校の学校文化の違いがあちこちに横たわり、それをどう統一していくかが大きな課題となっています。今、小中の教職員は、小中の学校文化から義務教育学校という新しい学校文化を作るために奮闘しています。簡単にはいかない仕事ですが、学園教職員の知恵を結集して必ずや一つの形に仕上げると確信しています。注目していきましょう。

糠内学園って、どんな学校？

糠内学園は、近い距離にある糠内小学校と糠内中学校、少し離れたところにある明倫小学校の二小一中からなる分離型小中一貫校で、小規模校という条件を最大限生かして機動力のある一体的な運営を進めている学園です。

特長① 「そろえる」「つながる」学園統一の取組

小中一貫教育の肝である「そろえる」「つながる」取組が、糠内学園では数々行われています。危機管理マニュアルや糠内スタンダード（生活や学習のきまり）、いじめ防止基本方針を学園で作成、学校評価は学園評価として3校統一、各教科の9年間の系統性を明らかにし学園の学力課題から指導の重点を定めた教育課程など、小中一貫校としての基礎をしっかりと築いています。



これに基づいた具体的な取組としての乗入授業も1学期と2学期に各3日間中学校全日登校という形で実施し、さらに学園マラソン記録会（三校合同）や総合的な学習の時間発表会の相互参観、小中・小小連携として糠内小中合同運動会や糠内小明倫小の合同着衣水泳、集合学習等々が様々に行われています。小規模の利点を最大限生かして、施設分離型小中一貫校の中ではすばらしい学園のまとまりを見せています。

特長② 進んだ ICT 活用

ICT 活用も盛んに行われ、各学校の授業での活用はもちろんのこと、児童生徒の発表会にも、学園運営や児童生徒・教職員の交流にも1人1台端末が活用されています。学園の部会の打ち合わせ、学級通信交流（閲覧と感想コメント）、小小連携の朝の会交流、中学生のリモート授業参加、奄美大島諸鈍小中学校とのオンライン交流など多彩な取組が行われています。双方向の交流をICT活用によって実現させています。



特長③ 計画的な学園運営

毎月、定例経営部会が開催され、年間計画のロードマップの進行管理がしっかりされるなど、計画的な学園運営も特長の一つです。取組ごとに成果と課題が確認され改善が加えられています。新たな課題が出てきても学園役員や部会所属の教職員の協議で解決策を見出すなど、小中一貫校の意識を高くもつ学園となっています。

特長④ 行動する運営協議会

委員自らが動いて奄美大島の学校との交流を実現させた、行動する運営協議会も特長の一つです。運営協議会のことがよく知られていない現状を何とかしようと、委員が手分けして各学校に入り運営協議会についての説明会を行ったり、次年度の学園方針の検討の際には、保護者の意見も聞きたいと保護者の声を拾い集めたりしています。また、運営協議会委員がそのままメンバーを兼ねて地域学校協働本部も立ち上げました。糠内学園は行動する運営協議会にがっちりと支えられています。



小中一貫教育・CS関係 11月の動き

- 1日(金) 札内東学園特別支援学級小中合同レク
- 8日(金) さつない学園小中「漢字検定」部会（札内南小会場）
まくべつ学園第2回役員会議（三役・各部長・副部長）
- 11日(月) 札内東学園防災倉庫見学（小小合同）
- 12日(火) まくべつ学園第3回学校運営協議会
まくべつ学園小中授業参観週間(全教職員対象)～15日
- 13日(水) 札内東学園防災学習（小小合同）
- 14日(木) 札内東学園実践交流会（札北小）
まくべつ学園第4回学園会議（開校部会）
- 16日(土) 糠内学園「総合」発表会交流
- 19日(火) ちゅうるい学園生徒指導・特別支援交流会
まくべつ学園小中一貫教育寿都町視察団受け入れ
- 21日(木) 糠内学園定例経営会議
ちゅうるい学園PTA小中合同研修会
- 26日(火) さつない学園実践交流会（札内中）
糠内学園中学校登校・乗入授業（～28日）
- 28日(木) さつない学園小中学生指導交流会（札内南小会場）
- 29日(金) まくべつ学園実践交流会（幕別中）
さつない学園小中授業参観交流（途別小会場）